

## 【急性変換】 ボタンの使い方

(4.0)

上位の施術版のみ

操作ボタン	詳細
<p>↓</p> <p>[急性変換]</p> <p>↓</p>	<p><b>【急性痛の場合】 ⇒ 普段の可動域が著しく制限されている場合</b> 動作検査が終了してから、施術目的の選択前に設定します。</p> <p>↓</p> <p>● <b>[急性変換]</b> を押し、<b>急性情報を設定</b> します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各運動面症状を設定し、[閉じる] を押しと、設定に応じた選出口ジックが働きます。</li> </ul> <p>「急性情報の設定方法」</p> <p><b>①0° (中間位がとれない)</b></p> <p>判断基準 → 普段通りの姿勢ができない。まっすぐに立てないなど。</p> <p><b>②対照差を認めない</b></p> <p>判断基準 → 2方向の痛みで、それぞれの差がない。前屈 = 後屈など。</p> <p><b>③対照差を認める</b></p> <p>判断基準 → 2方向の痛みで、それぞれに差がある。前屈 &gt; 後屈など。</p> <p>↓</p> <p>● [閉じる]</p> <p>↓</p>
<p>[施術目的]</p> <p>↓</p> <p>※ [骨盤検査]</p> <p>↓</p>	<p>● 基本は <b>[動作痛 (急性)]</b> を選択してください。</p> <p>● 骨盤検査を行う。(省略する場合あり)</p> <p><u>※検査も治療と同じなので、症状が楽になる方向は、丁寧に繰り返すと良い。</u></p>
<p>整体開始</p>	<p>● 整体を開始する。</p> <p>※症状の強い場合、座位で触察できるところから行うこともあります。</p> <p>※途中の Before After で良好であれば、骨格矯正や三角ブロック矯正で緊張緩和させることも有効な場合が多いです。</p>